

令和2年度事業実績報告

令和 3年 4月 1日
わきはまこども園

1、こども園の運営

所在地 貝塚市脇浜3丁目31-8

定員 80名(2号・3号) 9名(1号)

3月在園児数 97名

(内訳) 0歳児 6名 1歳児 12名 2歳児 17名
3歳児 19名 4歳児 22名 5歳児 21名

職員数 園長 1名 副園長兼主幹保育教諭 1名 事務長 1名
主幹保育教諭 2名 保育教諭 18名
管理栄養士 1名 調理員 4名(㈱淀川食品所属)
事務員 1名

2、保育目標

- ・ 体も心も元気な子の育成
- ・ 思いやりのある子の育成

(1) [開園時間]

午前7時～午後7時(保護者の状況により伸縮させる。)

[基本保育時間](2号・3号)

午前9時～午後5時

午後6時～7時(延長料金徴収)(標準時間認定者)

午後5時～7時(延長料金徴収)(短時間認定者)

[基本教育時間](1号)

午前9時～午後1時

午後1時～午後3時半(希望者は保育時間)

午後3時半～午後5時(延長保育料金徴収)

(2) 保育・教育の内容

- ・園児の個性や成長に応じることを意識した上で、理念、方針を基本とした保育・教育を心掛けた。
- ・体育や英語、習字、珠算の成果は、運動会や発表会のスライドにて発表し、掲示やホームページでアピールを行った。年度内に2回（5月と10月）に自由保育参観週間を設定し、体育、英語、珠算の授業を保護者向けに公開予定であったが、感染症の流行により、2回共実現出来なかった。しかし感染症対策を徹底した上で、日時を指定し、人数を制限しながら10月と11月に普段の園生活の参観行事を実施した。
- ・平成31年度（令和元年度）に引き続き、年長児に対して美術展に応募する機会を多く設ける予定だったが、コロナの影響で殆どの展覧会が中止となった。夏に一回、応募の機会を得た為、園児達は張り切り、切磋琢磨し、自己表現を楽しみ、精神面での大きな成長のきっかけとなった。
- ・プール遊びについては、水遊びや泥遊びにシフトする対応をとった。理由としては①プール遊びによる乳幼児の事故が多く報告され、園にも水遊び等の際の注意指示が頻繁になった為。②1か所を除く貝塚市内の市営プールが閉鎖となった為。③プール遊びを実施することがコロナの感染リスクを高める可能性がゼロではないと判断した為。④プール遊びと増改修工事に絡む頻回な部屋移動による事故を防ぐ為。しかしながら、増築棟下がピロティになっており、夏場は日陰となって風も通る為、夏の遊びには最適な場所となった。
- ・おおぞらこども園との子ども同士の交流は田舎体験（田んぼでの自然遊び）、雪遊び共に中止となった。雪遊びに関しては年長児のお別れ遠足の意味もあった為、コロナ感染者が減少傾向となった時期をみて、当園年長児がバスで泉南市の公園に遠足に行った。
- ・給食に関しては、食材料費について品質は保持しつつ、節約の共通認識を持ち、安全な給食、おやつ作りに努めた。管理栄養士や食育担当保育教諭による食育活動を盛んにした。コロナ対策としての手洗いやうがいの徹底、マス

クの着用等により、令和2年度はインフルエンザ感染者が出なかったが、全世界的なコロナウィルス感染拡大が長期（1年以上）続いている為、夏や冬の食育に関する行事、クッキングやバイキング給食等は軒並み中止とした。

- ・綿づくりや園芸活動等、自然との触れ合いを充実させる活動を重視した。
- ・二色ノ浜海岸のクリーンアップ活動や芋掘りによる地域の方々との交流も中止となった。
- ・夏には貝塚いぶき作業所さんのご厚意により年長児が陶芸の絵付けを体験し、園内で作品を展示した。
- ・8月に3歳以上の園児が参加予定であった、脇浜町会主催の夏祭りは中止となった。
- ・1月には十日戎の日に福参りをさせて頂き、地元根付く日本の伝統行事に触れる予定であったが園児の参加は中止となった。
- ・2年前まで毎年行われていた、西校区福祉委員会主催の独居の高齢の方々とのいきいきランチの会は令和2年度も中止となった。
- ・園児の保育必要時間が昨年度と同様、遡っての変更が変わらず頻繁で、作業や操作に工夫や人手が必要だった。
- ・コロナの影響により中学生の職業体験や高校生の職業体験は受け入れ側、送る側共実施しが難しく、中止となった。
- ・短期大学の実習生を2月に1名、大学の実習生を8月に1名受け入れた。
- ・新卒採用は行わなかったが、数年前に退職した保育士1名をパート保育士として4月1日付けであらためて採用した。
- ・引き続き処遇改善加算を受ける中で、可能な範囲でキャリアアップ研修を受講した。しかしながらコロナの蔓延が続く中、対面での研修参加は難しい状況であり、環境を整えつつ、オンライン研修参加を少しずつ始めた。乳児保育研修に1名、保護者支援研修に1名、認定を受けた。コロナにより多くの研修に影響があったが、キャリアアップ研修以外の研修もオンラインでの受講を出来る範囲で進めた。

よい子ネット研修が1名、非認知能力についての研修が2名、食育研修3名、事故防止研修2名、主任保育士研修1名、感染症対策研修2名、アレルギー研修2名、子ども理解の研修2名、保護者との関わり・保育士同士の同僚性の研修15名、

- ・保育士の処遇改善加算ⅠとⅡは実施された。
- ・保育士の処遇改善加算Ⅰは例年通り3月に手当として支給した。
- ・遊具や砂場の保守点検業務について㈱ビティへの委託は増改修工事期間中のため、一旦休止していたが工事終了後より再開している。
- ・施設的环境整備や書類のデータ化等は担当保育教諭が担い大きく前進している。
- ・園の方針に則り、各クラス内での保育のみにとどまらず、各自、任された担当業務を遂行し、みんなで力を合わせた業務を実践する事が出来た。
- ・令和2年度は感染症の脅威に晒され続けた年だったといえる。

(3) 保育・教育担当

- ・ 担当保育教諭を定め、園長は総括指揮をとった。
- ・ 事務長は運営事務に関する総指揮をとった。
- ・ 職場研修は三密を避けながら推進した。
- ・ 管理栄養士、調理員の配置で、子どもの安全、健康づくりを図った。

3、 保育・教育設備

園舎 …… 前年度と同様、美化に努めた。

- ◎増築棟は5月に引渡しを終え、既存棟の修繕工事は12月に完了した。
- ◎増改修工事により月単位で動線が変わったり保育環境に影響があった為、少しでも快適な環境で園生活を送れるよう、配慮した。
- ◎新型コロナウイルス感染症対策として密を避け、換気をよくする等の工夫と増改修による環境制限とを出来る限り調整した。
- ◎既存棟の外壁塗り替えを行った。

備品（購入した物）

- カーテンとカーテンフック
- 調理室内の劣化、破損した分の食器類
- 延長保育利用児用絵本
- 事務所用机、椅子、脇机
- 空調機を3基
- 職員用更衣室ロッカー
- 掃除用具収納庫
- おむつ交換台
- 職員室収納棚
- 事務所用ロールスクリーン
- ひよこ、つばめ、ひばり組の布団収納棚

4、 資金の計画

施設型給付費収入と補助金収入をもって収支均衡を図った。

5、 その他

引き続きインターネット関連の業務、安全防犯対策として機械警備、給食会社への委託を行う。

以上

わきはまこども園
園長 山田尚子